

ギンザ
1999
2
february
570
yen

1999年2月1日発行(毎月一回1日発行) 第3巻第2号 平成10年6月26日第三種郵便物認可

いち早く春のおしゃれニュース!

ブラピ&デйкаプの
恋愛遍歴のすべて。

春色のZuccaの服。

n°44 コキユ・デップ ジェネラルリサーチほか
毎日着たい東京の最先端ブランドの服。

'99年注目のビューティー

ナチュラルメイク&ストレートヘア

白・生成り・ベージュが流行色。

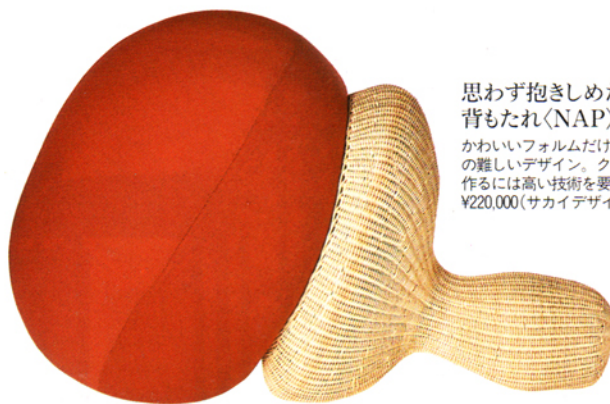
近田まりこ・野口強・大谷昌子・ソニア・パークほか
スタイリストがすすめる新アイテム
コムデギャルソンの新しい服づくり。

GINZA

GINZA・TOKYO・JAPAN

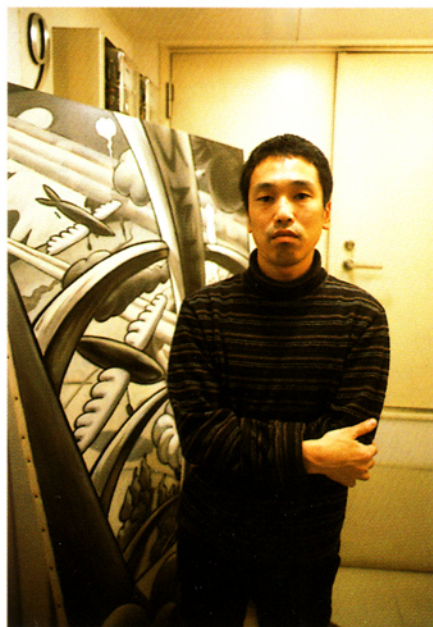
ソファを逆さにしたような、
背もたれ〈RED〉

ソファがあっても、つい床に座ってしまうのが日本人。だったら、最初から背もたれにすればいいわけ。一瞬なんだろう、と思い、よっかかるこれだ！と納得。受注生産。¥60,000(サカイデザインアソシエイツ)



思わず抱きしめたくなる、
背もたれ〈NAP〉

かわいいフォルムだけれど、実は職人泣かせの難しいデザイン。クッションも藤も実際に作るには高い技術を要するのだ。受注生産。¥220,000(サカイデザインアソシエイツ)



毎日が楽しくなりそうな、
斬新なフォルムとアイデア。

酒井俊彦さん
サカイデザインアソシエイツ

酒井さんの本来の肩書は工業デザイナーだ。工業デザインに求められるのは徹底したマーケティングとコスト意識。しかもどんなに苦勞してデザインしても、3カ月で消えてしまふなどということも珍しくない。「その点、家具は長く愛してもらえ。僕にとつては子供のぬいぐるみに近い感覚ですね」

5年前、実家の喫茶店が改装をすることになった。工業だろうがインテリアだろうがデザインはデザインというわけで、内装から家具までの一切が息子である酒井さんに託されたのが、家具作りを始めたきっかけ。今ではその時の椅子〈YOKO〉はじめ、15〜16アイテムが酒井さんのカ

タログに載っている。とはいえ企業のコスト主義に鍛えられたためか、家具についてもコストには厳しい。「デザインしたもの、実際に作るには高価すぎて諦めたものも少なくない。基本は自分で欲しいかどうかだけど、値段とそれに見合ったクオリティかどうかは気にします」

工業デザインで稼いで、家具で好きなことをやる。生みの苦しみもあるけれど、工業デザインの大変さに比べたら「むしろ楽しいくらい。家具専門でやっている人には怒られそうだけど」と笑う。

最近では個人のための特注家具の製作も手がけている。

プロには思いつかない素人の発想に形を与える仕事を、損得抜きで楽しんでいる。

「僕にとつては、工業製品だろうと家具だろうと関係ない。立体のものであれば、どんなジャンルでもこだわらずやっていきたいんです」

さかい・としひこ●東京造形大学を経てインダストリアルデザイナーに。オーディオなどの工業製品をデザインする傍ら、'94年に高知の「マグノリアカフェ」のオープンに関わることで、インテリアデザインのおもしろさを知る。現在では、個人のクライアントのための家具作りも手がける。昨年に続いて、今年も世界最大の家具展示会、ミラノ・サローネに出品する予定。

シングルソファ〈YOKO〉
ラブソファ〈FAT YOKO〉

YOKOは、酒井さんが実家の喫茶店のためにデザインした最初の家具作品。生地バリエーションは40色以上。上は〈YOKO〉W380×D560×H784(SH430)mm ¥36,000 右は〈FAT YOKO〉W1020×D740×H810(SH410)mm ¥70,000(共にアッサンブラージュ)

